

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月6日

【評価実施概要】

事業所番号	3770101990
法人名	株式会社 ケアサービスかがわ
事業所名	グループホーム春日
所在地	香川県高松市春日町671番地1 (電話)087-841-8825

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年7月14日	評価決定日	平成20年8月6日

【情報提供票より】(20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年9月19日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	16人	常勤	16人 非常勤 0人 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての1階～3階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000～55,000円	その他の経費(月額)	13,000円	
敷金	有()円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350円	昼食	500円
	夕食	550円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(平成20年4月1日現在)

利用者人数	25人	男性	5名	女性	20名
要介護1	2名	要介護2	7名		
要介護3	9名	要介護4	6名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	59歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やまもと医院	高松大塚歯科医院
---------	--------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、春日川に近く学校や緑豊かな田園に囲まれ、環境に恵まれたところにある。建物は鉄筋3階建て、1階から3階に3ユニットがある。玄関周りには季節の草花が咲き、屋内は明るく廊下に設置している水槽は、涼感とやすらぎを感じる落ち着いた家庭的雰囲気である。職員はホームの理念「家族愛」「自由でゆとりのある生活」を確認しながら日々の実践につとめ、利用者はその人らしくいきいきと暮らしている。今、課題である地域住民への啓発と交流について、チラシの配布や夏祭りに来ていただけるよう取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員は、改善課題である地域への啓発と交流について地域の自治会、学校などへチラシなどを持って訪問するなどの取り組みから、理解と協力体制が得られる働きかけを期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は、評価の意義を理解しユニット単位で自己評価を行い、改善課題については全職員が一丸となり取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回運営推進会議を開催し、事業所の状況報告、行事予定の報告を行いホームの理念や役割が理解されるよう啓発に取り組んでいる。参加人員は少なく参加者からの情報提供、サービス向上に反映できる交流までには至っていない。今後、地域の自治会や住民から理解と協力が得られる働きかけを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が面会に来られた時、職員は声かけをして情報提供、意見、苦情等を聞いて全職員で検討し、運営に反映できるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会行事に参加させてもらえるの願いと、ホームの夏祭りに地域の方に来ていただける働きかけをしている。散歩時の挨拶、買物、野菜をいただくなど地域住民との交流につとめている。今後も地域の方に事業所を理解していただき協力体制が得られる取り組みを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に「家族愛」を掲げ、地域密着型サービスの意義と役割を理解されている。運営理念やパンフレットなどの書類は見直しがされていない。	○	理念に「家族愛」を掲げ、職員は共有しているが「家庭的な環境と地域住民との交流のもとで地域密着型サービスとして、全職員で事業所の目指す、独自の具体的な理念の見直しが望まれる。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有し、毎朝の申し送り確認をし、日々の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議時に、自治会の行事など、地域活動に参加させてもらえるよう働きかけている。地域住民との交流までには至っていない。	○	地域の自治会行事に参加させてもらったり、ホームの夏祭りの行事に来ていただける働きかけをする。また、利用者の外出、散歩などに出かける回数を増やし徐々に交流の巾を拡大していく取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、評価の意義を理解しており、ユニット単位で自己評価を行っている。外部評価の結果を共有し、全職員が一丸となり改善に向け取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催しホームの状況や行事予定を報告している。参加者は少ない。委員との意見交換、サービスの評価、質の向上に向けて話し合う段階までには至っていない。	○	地域住民および行政関係者、家族など委員が運営推進会議に出席しやすい日を調整する。また、欠席者には後日報告書を送付し、理解と協力が得られ、情報交換ができるなど、サービス向上に向けての取り組みの工夫を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携は行えていない。	○	市担当者、地域包括支援センター職員などに運営推進会議への出席をお願いしたり、会議以外にも連携を持ち、ホームの理解と地元住民の協力を得るためのアドバイスを、もらえる働きかけを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に毎月ホーム便りを送付している。利用者の写真や状況を手紙に書いて一緒に入れている。また、家族の面会時は管理者が必ず声かけをして、状況報告や家族の要望も聞いている。職員の異動については報告していない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に管理者が利用者の状況報告をしている。また、家族、利用者の要望を聞いて職員に周知し共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は全員常勤者で(日勤・夜勤)、定期異動は年1回行っている。職員の出入りは多いが、異動時は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	○	家族との信頼関係を築くためにも、職員の異動報告を「ホーム便り」に一言書き、馴染みの職員による安定、安心したサービス提供が望まれる。異動による利用者へのダメージを最小限にできるよう、取り組みを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に施設内勉強会、段階的に施設外研修会にも参加できている。研修後、伝達報告を定期勉強会で行い職員間で共有している。	○	新入職員用の基本マニュアルを作成し、職員が働きながら知識、技術を身につけ、業務が実践できるよう取り組みが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修時に他同業者との交流をもち、質の向上に努めている。相互訪問による職員の研修はまだ行っていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談者には、事前に家族や利用者にホーム見学をもらい、家族とのコミュニケーションを密にし、馴染める雰囲気づくりをしながらサービス提供に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に歌を元気に歌ったり、楽しそうに会話をしたりよい関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の会話の中から、思いや意向の把握に努めるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3か月ごとに職員カンファレンスで話し合い、介護計画書を作成している。家族には状況によって電話で連絡をとり家族の意見を聞いて、計画に反映している。	○	職員間の意見は介護計画に反映できているが、家族、利用者の要望も反映できる取り組みを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に応じて随時見直しをされている。家族の要望は、面会時や電話で連絡をとっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助など家族、利用者の要望に応じて、意向にそえるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診は週1回、定期的にされている。また、24時間体制の支援もできている。家族、利用者の要望により、他医療機関への受診計画を立て支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から家族、担当医との話し合いを行い、職員は方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりとの接遇や個人情報の取り扱いにも留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課はあるが、利用者一人ひとりのペースに合わせ、野菜作りなど柔軟な対応で支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・食材は外注している。できる利用者は盛り付け、下膳を一緒に行っている。職員も一緒に食べながら介助や声かけをし、楽しく食事ができる雰囲気をつくっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日声かけをし、曜日・時間帯は利用者に合わせて支援している。機械浴は1階にあり、一日交替で入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おしぼりたたみ、洗濯たたみ、野菜作り、食事の盛り付け、片付けの役割を大切にして、声かけ見守りながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの年間行事であるお花見などには出かけている。利用者の希望により買物、散歩など日常的な外出の支援をしている。	○	外出支援の年間計画(行事)は、ホーム全体(3ユニット)で計画するのではなく、各ユニットごとに計画することが望まれる。また、日常的な外出についても、各ユニットごとの一人ひとりの希望に応じて、その日その日をその人らしく暮らせる支援や工夫を期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が、利用者へ声かけや見守りなど安全面に配慮し、日中は玄関、居室の鍵をかけず、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は年1回行っている。今年の計画はまだ立てていない。消防署へ通報の緊急連絡体制はとっている。避難訓練などの年間計画はまだしていない。	○	災害対策マニュアル作成や訓練実施計画を年間計画に組み入れる。また、地域の協力体制については、運営推進会議や自治会などへ協力をお願いするなどの働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量、水分量などの記録を職員は把握し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブル、ソファは配置よくゆったりと置かれている。壁面の作品は、利用者の手作りである。夏祭りのポスターや毎日元気に歌う歌詞を見やすく大きく書いて掲示している。一日中明るい歌声が流れ生活感が漂っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの家具や調度品を持ちこみ、壁面に行事の写真を飾るなど、利用者が安心して過ごせるよう工夫をしている。		